

景気回復に向かうベトナム経済

ベトナム経済

※当資料は「アジアリサーチセンター」のレポートを基に作成しています。

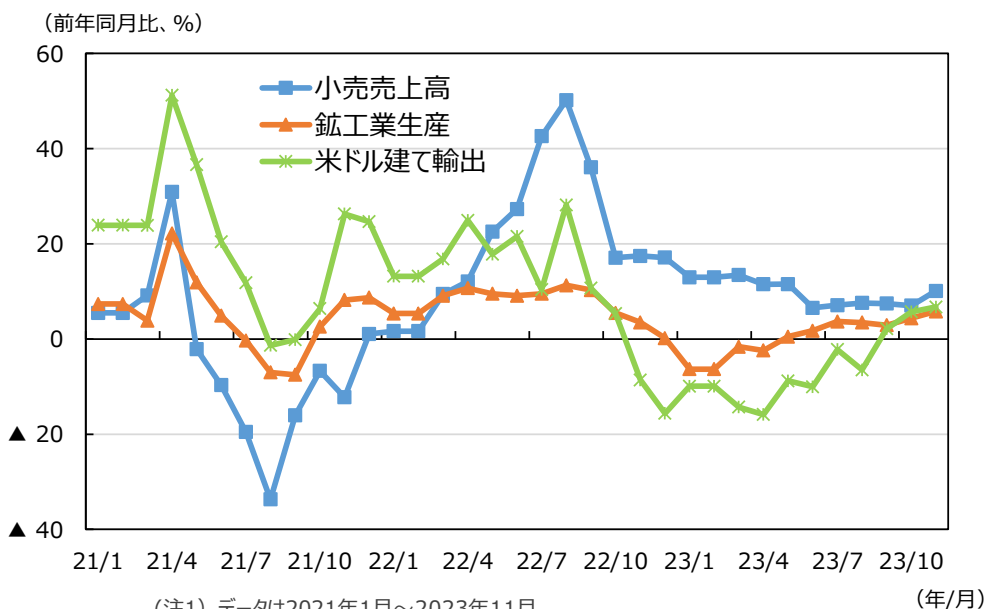
「ベトナム景気の2024年の見通しは？」

→輸出や生産が底打ちし、景気は回復へ。政府の景気支援策や海外からの直接投資も後押し

月次経済指標は底打ちを示唆

- **ベトナム景気は底打ちし、回復に向かいつつあります。** 11月の米ドル建て輸出は前年同月比+6.7%と、8月の同▲6.5%を底に、緩やかに加速しています。財輸出のGDP比率が高いベトナムでは財輸出の持ち直しは景気をけん引しやすくします。実際、鉱工業生産は9月の同+2.9%を底に11月には同+5.8%へ緩やかに加速しました。消費者物価上昇率は11月に同+3.4%と低位で安定しており、小売売上高は7～10月に同+7%台で推移していましたが、11月は同+10.1%へ加速しました。ベトナム経済にとって懸案だった7-9月期の社債大量償還を乗り越えたことから、景気持ち直しがより明確になってきたとみられます。

【図表1：ベトナムの主要指標】

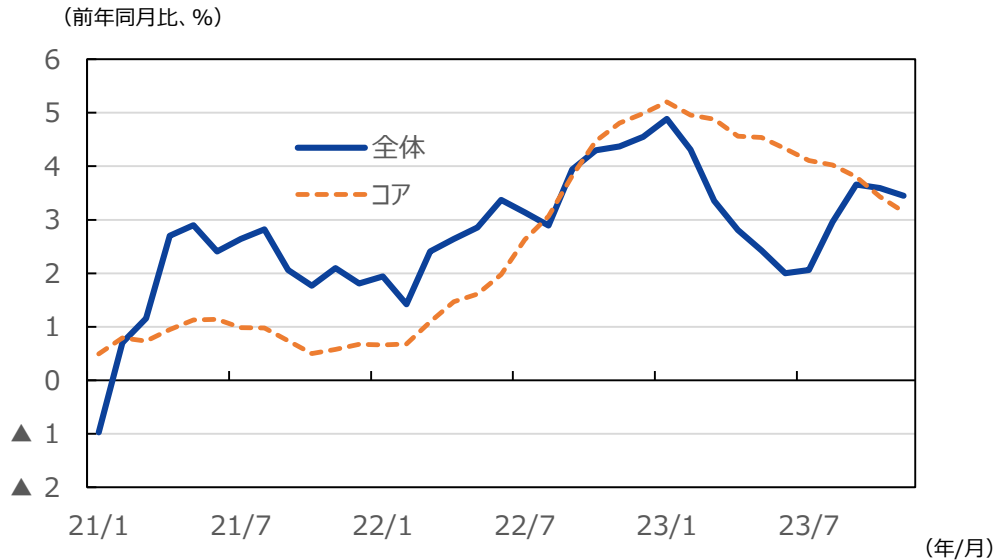


(注1) データは2021年1月～2023年11月。

(注2) テト（ベトナム旧正月）の影響を除くために1～2月は平均値。

(出所) CEICのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【図表2：ベトナムの消費者物価上昇率】



(注) データは2021年1月～2023年11月。
 (出所) CEICのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

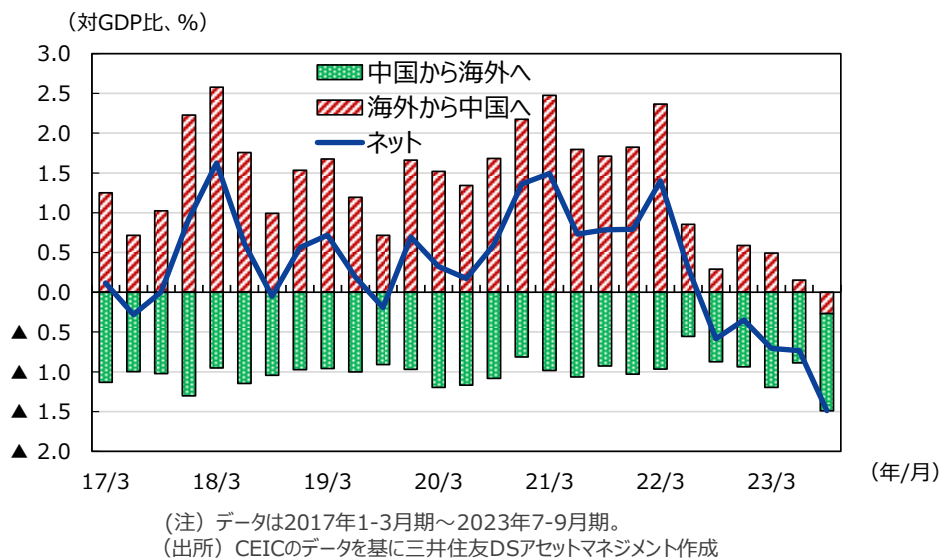
政府は2024年の景気回復を目指す

- ベトナム国会は11月9日に、2024年の実質GDP成長率の政府目標を6.0～6.5%と決定しました。ベトナム政府は2023年の成長率が5%を超えるものの目標の6.5%を下回る見込みだと認識しており、**2024年に向けて景気回復を目指していることがわかります**。また、ベトナム国会は11月29日に、**付加価値税（VAT）税率の引き下げ（10%から8%へ2%ポイント引き下げ）を2023年末から2024年6月末まで延長することを決定しました**。海外景気や不動産市場の不透明感が残るなか、今後もベトナム政府は景気下支えのため景気対策を講じるとみられます。

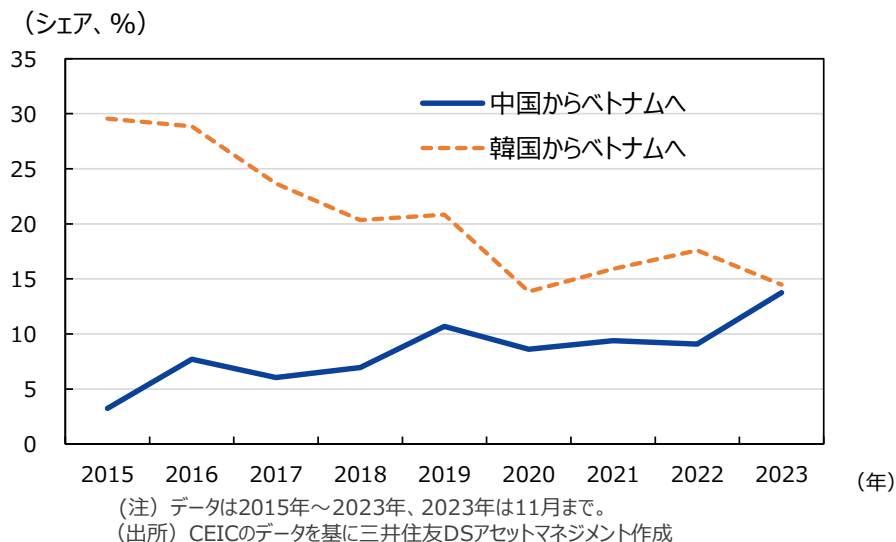
中長期的に中国デカップリングの恩恵

- 米中対立が激化する環境下で、外国企業は安全保障の視点から中国への進出に二の足を踏むようになっています。7-9月期には海外から中国への直接投資流入額は初めて減少しました。つまり、新規の流入額より引き揚げ額の方が大きくなったわけです。一方、**中国から海外への直接投資は増加傾向にあります**。つまり、中国企業が積極的に海外に進出していることを示唆しています。**海外からベトナムへの月次直接投資をみると、中国からの増加傾向が明確で、これまでベトナムに積極的に進出してきた韓国を追い抜く勢いです**。このように、**中国へのデカップリング（分断）の影響は、ベトナムの直接投資にプラスに作用しています**。中長期的にもベトナム経済はこの恩恵を受けやすいと言えるでしょう。

【図表3：中国から海外への直接投資が加速】



【図表4：中国からベトナムへの直接投資は増加傾向】



チーフリサーチストラテジスト
石井康之（いしい やすゆき）

【重要な注意事項】

- 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

作成基準日：2023年12月18日